

— 特 許 記 事 —

最近の製鉄鋼業界に於ける発明

- 公告番号 発明の名称 (発明者) 出願人
 特許出願公告 (昭和 32—5—20)
- 昭 32—2951 加熱した金属体に焼入れ用流体を直射する装置 (ウオルター・ハロルド・レンツ) カタビラー・トラクター・コムパニー (米)
 加熱した金属体の焼入れを区域別に制御して焼入れすること特に加熱した金属体を相異なる熱吸収性を有する流体の互いに共存する区域を持つシート状の焼入れ用流体を以て焼入れして当該金属体中に所望の硬度分布を生ぜしめるもの。
 特許出願公告 (昭 32—5—27)
- 昭 32—3102 珪素鋼板の表面に電気絶縁被覆を得る方法 (田口悟外 1) 八幡製鉄 K.K.
 第 1 磷酸カルシウムを水に溶解した水溶液又はこれに若干の磷酸を加えてなる塗布液を珪素鋼板の表面に塗布し、これを 300~800°C の温度範囲に保つた如くで高温に関連する適当時間加熱する方法。
- 昭 32—3122 溶銑炉用珪酸礬土質耐火煉瓦 (西川幸男) 三石星煉瓦 K.K.
 酸化鉄含有量の少い粘土質耐火煉瓦原料及び酸化鉄の含有量少くアルカリ含有量大なる鉱物を 1 種以上含有する原料から製造されかつ酸化物として 2.5% 以上 8.0% 以下のアルカリ及び酸化第 2 鉄として 1% 以下の鉄を含むもの。
 特許出願公告 (昭和 32—6—1)
- 昭 32—3251 含チタニウム砂鉄の処理法 (中村健次郎外 2) 昭和電工 K.K.
 含チタニウム砂鉄を細粉として 900°C 以上の高温で水素還元処理を行つた後、一酸化炭素を以て砂鉄中の鉄分を鉄カーボニルとして分離し高チタン含有残渣を得てこれからチタニウム化合物を生成させる方法。
- 昭 32—3253 鑄鉄の脱硫方法 (ホーマー・クレートン・バーンス・ジュニア外 1) (米) ユニオン・カーバイト・エンド・カーボン・コーポレーション (米)
 カルシウムカーバイトをガス流中に運ばせてこれを還元条件の下で熔融鑄鉄中に吹込んで鑄鉄中の硫黄分を脱去するに当り、この鑄鉄 1 トン当り約 0.9 kg の割合の脱酸剤とこの鑄鉄 1 トン中の含有硫黄分 0.01% 当り 0.9~1.8 kg の割合のカルシウムカーバイトを添加する方法。
- 昭 32—3254 方向性珪素鋼帯の熱処理法 (武井武外 2) K.K. 科学研究所
 方向性珪素鋼帯をアルカリ土金属水酸化物と併存させて閉鎖空气中に於て、600~800°C で 20 分間以上加熱保持する方法。
- 昭 32—3258 二重チルドロール遠心鑄造法 (広田博次外 2) 日立金属工業 K.K.
 ロール胴部の外殻部となる部分に金型を用い第一層に白銑を鑄込み該層の内側温度が 1050~1200°C の半凝固状の時炭素 2.8~3.4%、珪素 1.0~2.0% を含有し残部鉄よりなる鼠銑を注湯し、上記第一層白銑部と第二層鼠銑部の銑湯がその境界部に於て混合融着し該混合層及び外殻部第一層白銑部の厚さを種々に調節して形式する方法。
- 昭 32—3263 鉄鋼及び軽金属の防銹方法 (和田信明外 2) 佐藤正典 (略)
 特許出願公告 (昭和 32—6—6)
- 昭 32—3355 不銹鋼の黒色着色法 (秋元銀蔵) 同人
 ニッケル、クロムを含有する不銹鋼板を苛性ソーダの濃厚液に硫化物の 1 種又は数種と塩化物の 1 種又は数種とを添加した溶液で 100~180°C で加熱処理する方法。
 特許出願公告 (昭和 32—6—11)
- 昭 32—3551 原子水素電弧による表面熱処理装置 (相楽秀雄外 1) 三菱造船 K.K.
 原子水素電弧電極を被処理材表面に対して一定間隔に保ちながら移動させ該電極間に電弧を形成させて該表面を加熱するようにしたものに於て、電弧用電気回路に電力変動感知器を設け該感知器により電力調整装置を作動させて自動的に電力を一定に保つようにしたもの。